

意見書

# 鎌倉市社会基盤施設マネジメント計画（素案）に 関する意見書

— 現状・あるべき姿・実現プロセスの観点から —



# 目次

## 01 背景と問題認識

現状管理継続による2.16倍コスト増大の危機

## 02 全体提案の考え方

現状→あるべき姿→実現プロセスの三段構造

## 03 提案1

優先順位設定に「鎌倉らしさ」の説明項目を明示

## 04 提案2

鎌倉高校前踏切周辺を重点管理地点モデルとして位置づけ

## 05 提案3

情報化を「説明責任と継承」に資する標準様式で整備

## 06 提案4

市民協働は「小さく始めて定着させる」方式で

## 07 提案5・6

広域連携の活用 / 先行地区での段階的試行

## 08 提案7（新規）

全施設横断の予防保全体系化とLCC管理

## 09 評価指標

EBPM視点による多角的評価の提案

## 10 実施ロードマップ

短期・中期・長期計画との対応

## 背景と問題認識 | なぜ今、マネジメント計画の充実が急務か

2.16倍

インフラ管理経費  
(現状管理継続時)

H25年度(40億/年)→40年後(86億/年)

2.75倍

下水道事業特別会計の  
経費増

22億/年 → 59億/年 (最大の増加)

18% ↓

マネジメント実施による  
削減効果

一般会計：約39億/年 → 約32億/年

40年

計画期間 (短期9年・中期19年・長期40年)

三層構造によるPDCA運用

本計画 (素案) の方向性 (リスク評価・情報管理・協働・PDCA) は妥当。ただし、観光と生活が同一空間で重なる「鎌倉固有の文脈」を運用設計へ丁寧に組み込むことが今後の課題。

## 全体提案の考え方 | 現状→あるべき姿→実現プロセスの三段構造

### (1) 現状認識

- リスク評価・情報管理・協働・PDCAの枠組みは整理済みで方向性は前進
- 歴史的景観・観光・生活・防災が同一空間で重なる地点が多く一般的なインフラ管理の枠組みでは説明が難しい場面が生じやすい
- H25年度実績（一般会計40億/年）が40年後に86億/年へ増大という財政制約の深刻さを出発点として共有する必要がある

### (2) あるべき姿

- 市民の安全・安心と生活動線が確保されている
- 歴史的景観・地域の魅力が損なわれていない
- 財政制約の中で優先順位が透明に説明できる
- 観光客にも過度な混乱のない受入環境が維持されている
- 行政・関係機関の負担が持続可能な範囲に収まっている

### (3) 実現プロセス

- ①重点地点・重点課題の明確化
- ②見える化（指標設定・情報蓄積）
- ③運用の段階導入（小さく始める）
- ④効果検証（PDCA）
- ⑤横展開・標準化
- ※本計画（素案）の考え方と整合

## 提案1 | 優先順位設定に「鎌倉らしさ」を反映する説明項目の明示

### 現状の課題

- リスク評価に基づく優先順位は合理的だが、鎌倉では説明の難しさが生じやすい
- 「なぜ観光客が多い場所を先に補修するのか」という市民疑問への対応が不十分になりやすい
- 技術的劣化度だけでは、鎌倉固有の価値が判断根拠に含まれない

### 提案：4つの説明項目を判断根拠に明示

#### ① 景観・歴史的文脈への影響

鎌倉独自の観点

#### ② 観光回遊動線としての重要度

来訪者への影響

#### ③ 市民の日常生活動線としての重要度

生活・安全

※数式や制度の複雑化より、まず「説明欄・判断根拠の記録項目」として段階的に導入。EBPMの観点から、記録の蓄積が将来の計画改定根拠となるデータ資産になる。

## 提案2 | 鎌倉高校前踏切周辺を「重点管理地点」モデルとして位置づける

現状認識：既に各種対策・運用上の工夫が行われ改善してきている。課題の性質は「未対策」から「改善を持続・安定化させるための運用設計」に移行した段階。



目指す状態  
(あるべき姿)

- 住民の生活動線・交通安全が確保されている
- 来訪者も過度な混乱なく行動できる
- 行政・関係機関の現場負担が過大でない
- 状況変化に応じて運用を調整できる (=PDCAが機能している状態)

## 提案3 | 情報化を「説明責任と継承」に資する標準様式で整備する

課題：単にデータを蓄積するだけでは、担当者が変わると「なぜその判断をしたのか」が追えなくなる。施工管理現場で頻発する典型的問題。

### ① 写真

位置・時刻付き

### ②

### 状態判定

危険度・緊急度

### ③

### 対応区分

応急・計画修繕・経過観察等

### ④

### 優先順位の理由

安全・景観・生活・防災等（提案1と連動）

### ⑤

### 実施時期・費用

予算・実績

### ⑥

### 再発状況・効果確認

PDCA根拠データ

✦ LCCとの連携：蓄積情報から将来修繕費を精緻化（LCC試算が可能）→「現状管理継続で2.16倍」を回避するための最重要基盤。本計画リーディングプロジェクト③の具体的実装方針。

## 提案4・5 | 市民協働の段階的定着 / 近隣自治体知見の「鎌倉型」翻訳

### 提案4：市民協働は「小さく始めて定着させる」

**対象** 舗装段差・公園設備の破損・危険箇所等（判断基準が明確なもの）

**方法** 写真＋位置情報＋簡易分類（3分類程度）

**条件** 受付基準・対応区分・対応目安時間を明示する

**範囲** 先行地区で試行し、効果確認後に拡大する

EBPM補足：市民通報データ→劣化傾向の早期把握に活用できる二次データ

### 提案5：近隣自治体の知見を「鎌倉型」に翻訳して取り込む

① **混雑情報の可視化・周知**  
行動分散によるインフラへの集中負荷軽減

② **繁忙期の運用モード切替**  
誘導・注意喚起・安全確保の標準化

③ **生活動線と観光動線の整理**  
交通事業者・神奈川県との連携

④ **役割分担の明確化**  
市が単独で抱え込まない範囲の設定

観光対策とインフラ管理の分断を避け「鎌倉型重点地点管理」の精度を向上させる

## 提案6 | 先行地区で試行・評価してから広げる（短期計画での実装）

| 準備 ~令和7年度   | 試行 令和8~10年度  | 評価 令和10~11年度  | 展開 令和12年度~  |
|---|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>先行地区の選定（観光・生活動線が重なる地区）</li> <li>試行施設の選定</li> <li>評価指標・記録様式の確定</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>重点管理地点・情報化</li> <li>市民協働を統合試行推進会議で四半期ごと進捗報告</li> <li>問題点の洗い出しと改善</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>6指標による効果測定（再掲→次スライド）</li> <li>推進会議での評価共有</li> <li>標準化・水平展開の方針決定</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>全市への横展開</li> <li>中期計画への反映</li> <li>次期マネジメント計画改定</li> </ul> |

### 評価指標（先行試行フェーズ）

- 対応時間（通報～処置完了）
- 再発率（同一箇所の再劣化頻度）
- 事故・ヒヤリハット件数
- 市民理解・苦情件数
- 職員負担（実務時間）
- 対策費用対効果（LCC削減額との比較）

## 提案7（新規） | 全施設横断の予防保全体系化とライフサイクルコスト管理

課題：予防保全の対象が道路・下水道に限定。橋りょう(207橋)・トンネル(21箇所)・公園等(272箇所)等を横断する体系的導入が不十分。

★ NEW

### ① 予防保全導入優先度マトリクス

リスク×維持管理費削減効果で全施設種別の優先順位を設定

### ② 標準点検サイクルの整備

施設種別ごとの点検頻度・様式・判定基準を策定→台帳に組み込み

### ③ 40年LCCの施設別試算・公表

建設コストだけでなく維持管理・更新費を含む将来経費の見通し

### ④ 予防保全効果の測定

事後修繕コストとの比較をPDCAサイクルに組み込む

### ⑤ 高耐久素材・工法の採用検討

長寿命舗装材・高耐久塗装等による修繕周期の延長

一級建築士の所見：鎌倉市では景観への配慮から大規模修繕工事の施工制約が多く、早期対応による規模の最小化が特に重要。予防保全は修繕費削減だけでなく、緊急対応による工事品質低下・来訪者へのサービス低下を防ぐ効果も大きい。

## 評価指標の提案 | EBPM視点による多面的評価（★印は新規追加指標）

| 分類         | 指標項目              | 測定方法        | 目標水準（例）    |
|------------|-------------------|-------------|------------|
| 安全<br>・安心  | 事故・ヒヤリハット件数       | 各部署報告集計     | 年10%以上削減   |
|            | ★ 重点管理地点での危険行動発生率 | 現地観察・通報データ  | 繁忙期前年比20%減 |
| 財政<br>・コスト | 計画修繕実施率（予防保全）     | 施設別マネジメント計画 | 短期計画で80%以上 |
|            | ★ LCCコスト削減率（計画値比） | LCC定期レビュー   | 40年累計15%削減 |
|            | ★ 緊急対応（事後修繕）費用比率  | 維持管理台帳      | 全修繕費の20%未満 |
| 情報<br>管理   | デジタル台帳整備率         | 台帳システム      | 全管理施設の100% |
|            | ★ 点検記録の根拠項目記載率    | 台帳記録の質監査    | 90%以上      |
| 市民<br>協働   | 市民通報件数・対応完了率      | 通報受付台帳      | 完了率90%以上   |
|            | ★ 市民協働参加者の継続率     | 年度別参加者記録    | 2年継続率60%以上 |
|            | ★ 職員実務時間（負担指標）    | 業務時間記録      | 協働導入前年比±0% |

★ 印：今回新規に追加を提案する指標

# 実施ロードマップ | 本計画の三層構造（短期・中期・長期）との対応

|                  | 短期計画<br>H29～H37年度 | 中期計画<br>～H47年度 | 長期計画<br>～H68年度 |
|------------------|-------------------|----------------|----------------|
| 提案1<br>優先順位説明    | 説明項目の試行導入（重点施設）   | 全施設への標準適用      | 説明フォーマットの制度化   |
| 提案2<br>重点管理地点    | 鎌倉高校前踏切でモデル実施     | 同様地点への横展開      | 全市重点地点管理の標準化   |
| 提案3<br>情報化       | 標準記録様式の策定・試行      | 全施設への台帳展開      | AIを活用した劣化予測の検討 |
| 提案4<br>市民協働      | 先行地区での写真通報試行      | 運用定着・対象拡大      | 市民協働の制度化       |
| 提案5・6<br>広域・段階試行 | 先行地区で全提案を統合試行     | 評価・改善・拡大       | 標準モデルの確立       |
| 提案7★<br>予防保全LCC  | 優先度マトリクス策定・LCC試算  | 全施設横断的展開       | 40年LCCの更新・精緻化  |

## 結び

# 意見の核心：7つの要望

- ① 優先順位設定に「景観・観光・生活・防災」の説明項目を明示する
- ② 鎌倉高校前踏切周辺を重点管理地点モデルとして位置づける
- ③ 情報化を「説明責任と継承」に資する記録標準様式として整備する
- ④ 市民協働を「小さく始めて定着させる」段階的方式で進める
- ⑤ 近隣自治体の知見を「鎌倉型」に翻訳して取り込む仕組みを設ける
- ⑥ 先行地区での試行評価を経て段階的に拡大する実装方針を明確にする
- ⑦ **(新規) 全施設横断的な予防保全体系化とライフサイクルコスト管理を導入する**

現状管理継続で40年後に2.16倍へ増大するインフラ管理経費を抑制しつつ、鎌倉らしい暮らしと景観の価値を将来へ継承する計画の深化を期待する。